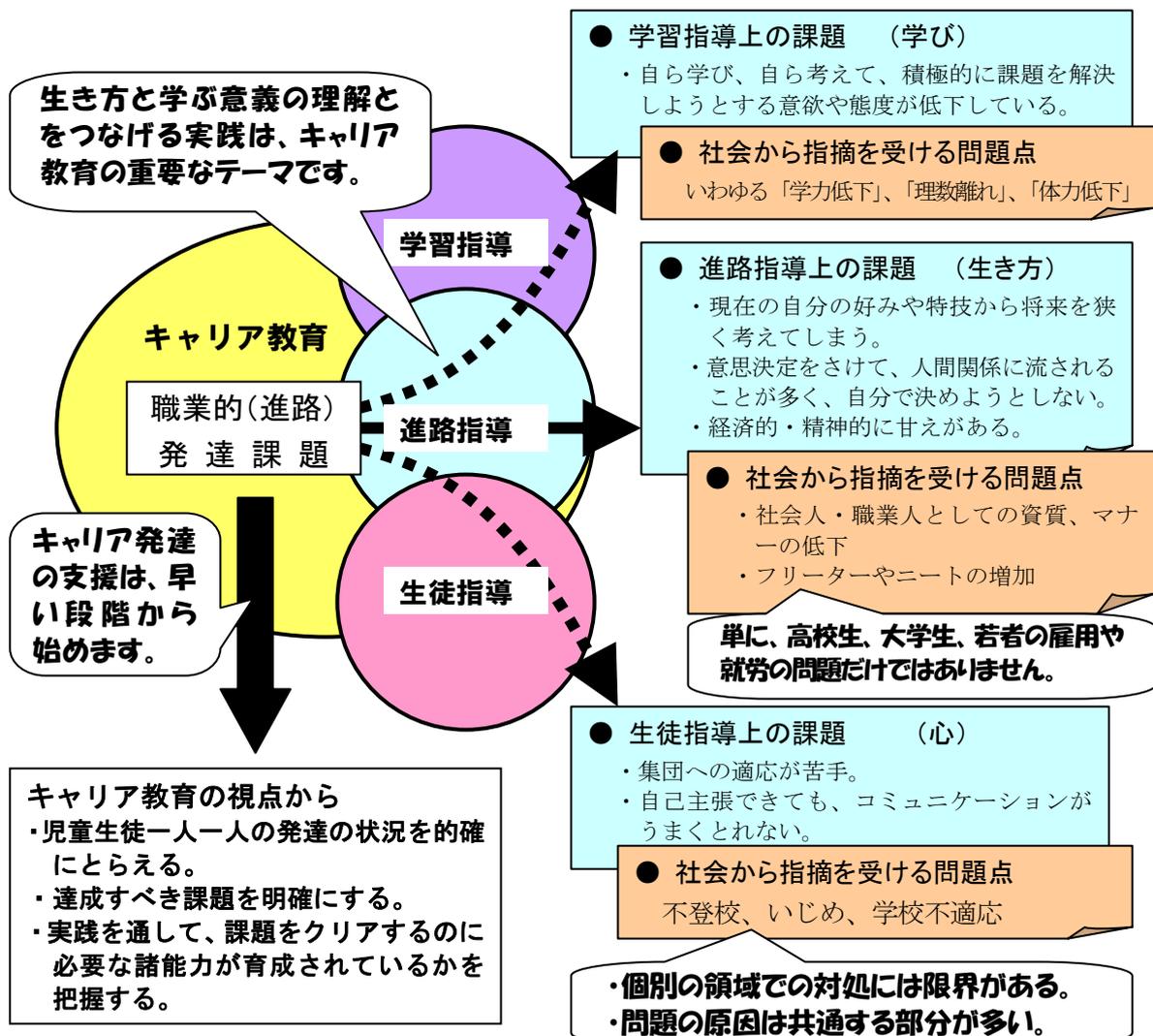


### Q3 なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのか？

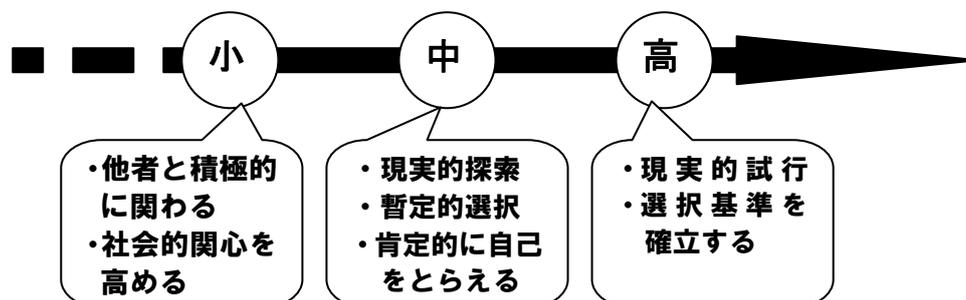
**A3** 近年、「フリーター」や「ニート」の増加に代表されるような、若者の働くことに対する意識や行動の変化は、児童生徒の発達をめぐる問題であると考えられます。

このような問題に対しては、高校や大学の進路指導の充実だけでは対処できません。小・中・高の連携を意識した体系的なキャリア教育の取組が求められています。

イメージ図 キャリア教育の視点と諸課題のとらえ方



■ 小中高の連携を生かしながら、生き方や進路選択・決定をめぐる、どのような課題をクリアしていかなければならないのか？



学校段階別の生き方や進路をめぐる発達段階と発達課題の特徴

学校段階	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
発達段階の特徴	生き方や進路を探索・選択をするための意欲、能力や態度の基盤をつくる時期	生き方や進路について現実的に探索して、暫定的に選択しようとする時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
自他の理解に関する発達課題の特徴	自己及び他者への積極的関心の形成・発展 (具体例) ・自分の気持ちと他者の気持ちの双方を理解しようとする。	肯定的自己理解と自己有用感の獲得 (具体例) ・他者との関わりの中で、自分のよさに気付くことができる。	自己理解の深化と自己受容 (具体例) ・他者との関わりの中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができる。
<b>人間関係形成能力</b>			
働くことや職業選択に関する発達課題の特徴	身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 (具体例) ・働く姿に関心をもち、仕事の種類や内容を理解しようとする。	興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 (具体例) ・自分の職業に対する興味・関心や志向性などの特徴を理解する。	選択基準としての勤労観や職業観の確立 (具体例) ・自分なりの考えやよりどころを明確にして、職業や進路を選択しようとする。
<b>情報活用能力</b>			
将来設計や進路選択に関する発達課題の特徴	夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 (具体例) ・自分があこがれている職業の内容を具体的に言うことができる。	進路計画の立案と暫定的選択 (具体例) ・仕事に就くなど、社会に出るまでの道すじをイメージして、卒業後の進路を決定しようとする。	将来設計の立案と社会的移行の準備 (具体例) ・仕事に就いてから、社会生活を営む自分の姿をイメージして、社会的に自立しようとする。
<b>将来設計能力</b>			
進路の決定に関する発達課題の特徴	勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 (具体例) ・勤労体験や働く人々の姿を通して、社会の中で真剣に取り組むことの大切さを実感して、実践しようとする。	生き方や進路に関する現実的探索 (具体例) ・実際に働く人々の姿をモデルにしなが、将来の職業を選択したり、自分の進路を決定したりしようとする。	進路の現実吟味と試行的参加 (具体例) ・自分が実際に働くことを想定しながら、実際に職業を選択したり、自分の進路を決定したりする。
<b>意思決定能力</b>			

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書 平成14年11月）」をもとに作成

## 事例紹介

ここでは、中学生や高校生の発達課題の特徴を踏まえて、自他の理解を促す指導を充実させるための事例を二つ紹介します。

### 事例5〔中学校〕自己紹介カードの作成

この中学校では、社会体験活動に参加させる際、肯定的自己理解や自己有用感の獲得を重視するねらいから、自己紹介カードに社会体験活動に寄せる期待や、自己PR文を書かせています。

■ **事例の特徴**：「自己紹介カード」の形式を工夫して、単なる所属や立場の紹介だけにならないようにしています。高校や大学でも、履歴書や志望理由書が書けないという悩みがありますが、書き方のガイダンスだけでは指導が十分ではありません。

中学校段階では、他者との関わりの中で自分のよさに気づき、それらを素直に表現しようとする態度を育成することが大切です。社会体験などの活動は、自他の理解を促すチャンスです。

自 己 紹 介	
	○ 事業所名 ○ 氏名 ○ 委員会、部活動、趣味、部活動、特技 など
この体験場所を選んだ理由	興味・関心をもった理由など。 (記入例) 家族が福祉施設に勤めていて、その様子を聞き、関心をもつようになりました。
この職場体験で得たいこと	生徒自身の課題など。 (記入例) 福祉施設で働く人々が、どんな苦労や喜びを感じながら勤めていらっしゃるのか知りたい。
自己PR	※ 例示をあまりせず、できるだけ生徒に考えさせたい。 ※ 「〇〇委員をやっています。」のように、所属や立場の紹介だけに終わらないような書き方をさせる。

## 事例6〔高等学校〕生活や学習の習慣を振り返るセルフチェックシートの作成

この高校では、これまで身に付けた基本的な生活習慣や、学習に臨む態度などを振り返らせることから、進路学習を始めています。

- **事例の特徴**：「セルフチェックシート」を用いて、自己評価をさせています。小学校や中学校で身に付けたことの意義を再確認させるねらいがあります。

**セルフチェックシート**

充実した高校3年間にするには**スタートが肝心**です。今日はここ最近の生活を振り返り、これからの高校生活がどうなるか見てみましょう。  
日常生活と学習の両面からチェックして、1～3の中であてはまるものを回答欄に記入しましょう。

**まずは日常生活から**

① 就寝時刻&起床時刻は規則的ですか。  
1 規則的である      2 だいたい規則的である      3 規則的ではない

② 挨拶は積極的にできていますか。  
1 元気に挨拶できる      2 時々出来ている      3 まだちょっと出来ていない

③ 清掃などの奉仕作業に、積極的に取り組んでいますか。  
1 いつも一生懸命      2 時々サボってしまう      3 サボってしまうことが多い

・ (④～⑥省略)

⑦ 1日の時間をどのように使ったかを反省しますか。  
1 反省する      2 時々反省する      3 反省しない

**次に学習態度について**

① 朝の読書は楽しんでいますか。  
1 いつも楽しく読んでいる      2 時々楽しく読んでいる      3 読書が嫌い

② 文章を書くときに出来るだけ漢字を使うようにしていますか。  
1 いつも気を付けている      2 少し気を付けている      3 漢字をあまり使わない

◇ セルフチェックシートで感じた、自分の反省点を文章で書いてください。  
○ 私の反省点  
○ 私の改善案  
○ 改めて、高校での目標をたてよう！！  
○ 疑問や質問、調べてみたいこと (記入欄は省略)

**小学校や中学校段階で身に付けたものを重視します。**

**高校段階は、自己理解の深化と自己受容が発達課題となります。**  
◆ 発達課題を踏まえて、他者と関わる中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができるかに着目させます。

### 事例から学ぶこと

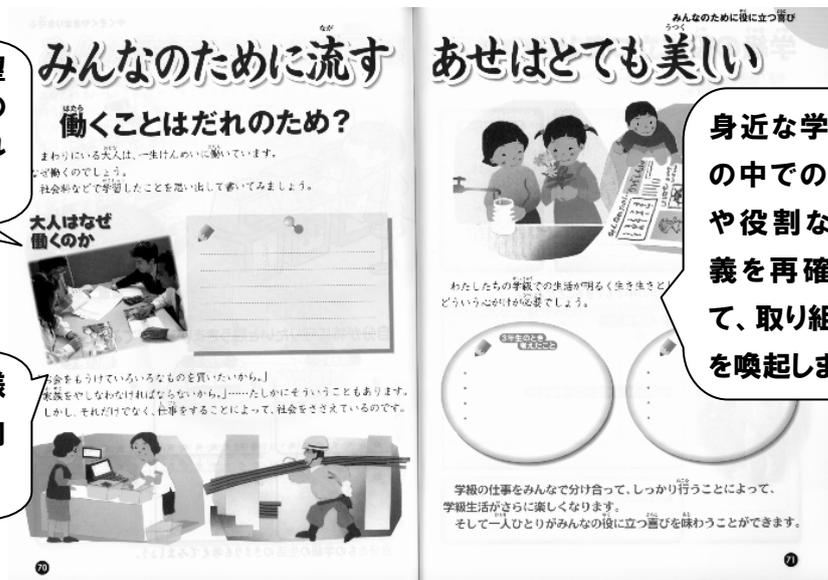
肯定的自己理解や自己有用感に基づいて自他を理解するためには、学習、スポーツ、芸術などの成績や特技の面だけでなく、幅広く日常生活や学校の諸活動を振り返らせて、自分のよさに気付かせることが大切です。また、自他の理解を促すためには、異年齢集団や地域の人々と関わる機会など、多様な人々と関わる活動と関連付けることが有効です。

## 解説4 児童生徒の発達と勤労観及び職業観のとらえ方

「勤労観」の上に「職業観」が形成されていくという発達上の特徴があることから、小学校段階のキャリア教育では、「勤労観」の育成に力点を置き、幅広く職業の世界に目を向けられるようにしていくことが大切です。そして、中学校、高校段階では、現実の職業世界を受け入れて、積極的に仕事に就こうとしたり、働くことの多様な側面を理解できるようにしたりすることが大切です。

小学校では、望ましい勤労観の育成に力を入れます。

働く意義の多様な側面に目を向けさせます。



(「心のノート」 小学校3・4年より)

### ◆ 望ましい勤労観、職業観の例 ◆

勤労観や職業観は個々人の価値観ですが、社会や集団で生きていく以上、いわゆる「望ましい」という共通する部分が必要となってきます。

#### ■ 基本的な理解や認識の面

- ・ 職業には貴賤がなく、様々な職業から社会が成り立っている。
- ・ 職務を遂行する際には、規範の遵守や責任がともなう。
- ・ 職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力や適性を発揮して、社会の一員としての役割を果たすという意義がある。

#### ■ 情意や態度の面

- ・ 一人一人の存在やその個性が、かけがえのない価値のあるものである。
- ・ 自己と働くこと及びその関係について総合的に検討を行った上で、勤労や職業に対する自分なりの考え方をもつ。
- ・ 将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度をもつ。

## 解説5 中学生、高校生の「働くこと」に対するイメージ

次は、中学生及び高校生に対して「働くこと」のイメージを記述してもらった結果です。

### 【質問】

あなたは、「働くこと」について、どのようなイメージをもっていたり、感じたりしていますか。「働くことは、」に続けて、自由に書いてください。

下に「参考にすることば」を例としてあげましたが、それ以外のことばを使ってもかまいません。必ず一文以上書いてください。

- 記述内容を八つの区分（七つのカテゴリーとその他）に分類して、調査対象の全生徒数に対する各区分ごとの回答の割合（%）を示した。
- 一人が回答した文章中に、複数のカテゴリーの内容が含まれている場合、それらすべてを割合に含めた。

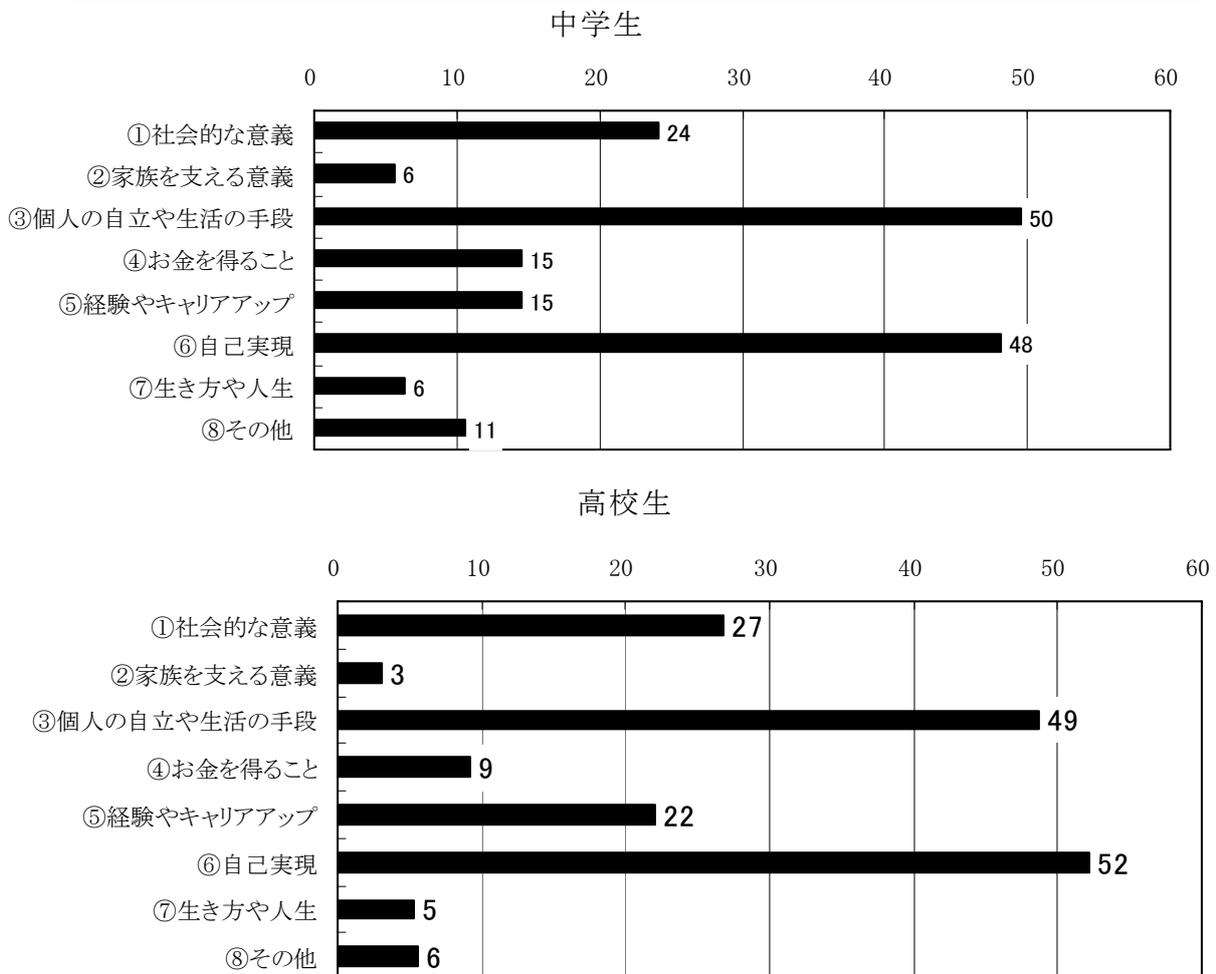


図 「働くこと」のイメージ

進路に関する調査（平成17年7月、栃木県総合教育センター）より  
 中学生 899名（男 447、女 452）、高校生 869名（男 201、女 668）、合計 1768名

## ◆ 調査結果から分かること ◆

「働くこと」に対してもつイメージは、中学生、高校生とも似た傾向です。「個人の自立や生活の手段」と「自己実現」の二つのカテゴリーが50%前後の回答であり、現実と夢、あるいは現実とあこがれの間で、イメージしていると推察されます。

実際の進路選択や職業選択の場面では、この二つだけでなく、「働くこと」の様々な側面を検討して意思決定を行っています。「働くこと」が社会との関わりや人間関係などに触れた回答は、やや少ない結果となっています。

### ○ 中学生の回答例

① 社会的な意義	人間の義務。働かないと社会はなりたたない。生きることの基本。
	社会に大きく貢献する。仕事はお金をたくさんもらえる。
	最後までやりとげなければならない。
	自分とお客さんとの信頼関係を築く。
	人に夢を与えるためのもの。
	他人を助ける仕事もある。
	仕事をしながら社会の役に立つ。
② 家族を支える意義	家族を支え、よりよい生活をするため。
	夫としての義務を果たし、家族を養う。
	お金があればやさしい明るい家庭ができる。
③ 個人自立や生活の手段	生活に必要な最低限の金銭を稼ぐ。
	働いて得たお金で食べていける。自分のために働く。
	大人になって働いていないとお金がもらえず、なんとなく情けない。
④ お金を得ること	給料をもらえる。
⑤ 経験やキャリアアップ	いっしょけんめい働いて、給料をもらい、その金をやりくりして生活して、社会の厳しさをあらためて実感すると思う。
	実績を残せばランクが上がる職業もある。
	社会に出て自分の立場を自覚する。
	社会を知るチャンスである。
	社会に出て自分をどれだけ試せるかを学ぶ。社会の厳しさを学ぶ。
	トップになって多くの人々たちを自分でまとめていく仕事をできるようにする。
⑥ 自己実現	親がどんな思いをしてお金を貯めているか分かり、親の生き方も学べる。
	ただ辛いだけでなく、厳しくてもやりがいがあって楽しんで自分のためになるものがある。
	自分の人生を左右するもので、やりがいをもたないと一生苦勞する。
⑦ 生き方や人生	日々の生活にメリハリをつける。がんばってお金を得ると達成感がある。
	生活に必要な最低限の金銭を稼ぎ、好きなことをする。
	無業者にならない。
	能力の問題で職選びは自由にできないのでニートが増える。
	人によってはやりたいことがあって仕事にしている人もいるだろうし、お金のためには働いている人もいると思う。
⑧ その他	いい大学に入っていい会社に入った方がよい。
	お金がもらえるけれどつかれるイメージである。
	両親への感謝の気持ちをもつ。

## ○ 高校生の回答例

① 社会的な意義	働く人がいなければ、生活できない。一人一人が働いているから今の生活が維持できる。
	国民の義務、権利であり、生きるために必要な金を得る手段である。
	学校と違ってミスをすると会社に迷惑がかかってしまう。
	好きなときに休めず、会社から連絡があって急いで出勤する大変な感じである。
	責任が重く、最後までやり遂げなければならない。
	仕事上でふざけてしまうと、給料が下がってしまったり、解雇されてしまったりするのではないかとというイメージである。
	人として社会の役に立つこと。
	社会の中で周りの人と協力して収入を得ること。
	社会人であることの象徴であり、社会とつなぐもの。
② 家族を支える意義	男の人にとっては、家族を養わなくてはいけないため、必要不可欠なことだと思う。
	家計を考えればお金をかせいで家庭を築くことも大切である。
	将来の家庭のためにもお金は必要である。
③ 個人自立や生活の手段	厳しいが働かなければ生活できない。
	金を得て生活を豊かにすること。
	何もしない無気力の状態から抜け出すための方法。
④ お金を得ること	働けば働くほどお金がもらえる。
	お金をかせぐこと以外に仕事をする意味はないと思う。何もしないでお金が手に入るなら仕事をする人はいないと思う。
⑤ 経験やキャリアアップ	生きがい、楽しさ、厳しさ、ルール、マナーを学ぶ。
	社会に出て色々な経験をする。
	学問とは違う「学び」ができる生活を送ること。
	様々な人と出会い、ふれあい、自分をどこまで出せるか、頑張れるか、試すこと。
	楽しさや厳しさの中で自分がどれだけのことができるか試すこともあり、自分がどの仕事に向いているか、知るチャンスをもらえる社会の場である。
やりたいことを追求してその道の専門家になること。	
⑥ 自己実現	自分で働いて自分でかせいだお金を手にしたときうれしくなるもの。
	興味や特技を生かして生活をより豊かにする。
	いろんな人や物と関わりをもち、楽しい生活を送れるようにすること。
	一生をかけてやりたいことを叶える方法。
⑦ 生き方や人生	将来自分の人生に影響していくので大切だと思う。
	人間、少しづらいくらいが幸せなんじゃないかと感じることもある。
⑧ その他	当たり前に行うこと。
	全然知らない人たちと一緒に働くので不安である。